

週報

こひつじ

第39巻 7号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

ご覧になる神

その三 イエス・キリストとの出会い

第三に、ジョンソンが感謝するがあつて、おまえはきつと宗教に
 のは次のことです。 走ったのだろうか

「我は御子イエス・キリストを識 でも子どもというものは、なぜ
 るを得しことを感謝する」 か親をゆるせるもので、本人の私

私も同様です。 は自分ばかりが不当にたたかれた
 私は今に至るまで、自分がクリ とは思っていなかったのです。で
 スチャンになれたことが不思議で すから父のその言葉は私にはやや
 ならないのです。 意外でした。

私は、子どもの頃、父によくぶ しかし父が亡くなったとき、弟
 たれました。父が言うには、私を が葬儀の挨拶の中でこう言いまし
 おとなしくさせておけば、家の中 た。

に平和があったのだと。私はよほ 「私は、思い出すと、子どもの頃
 ど私の強い子どもだったのでしょ から一度も父にたたかれたり、叱
 う。のちにクリスチャンになった られたりした記憶がないのです」
 とき、父は言いました。 それを聞いて、

「小さいときからおまえばかりを 「ああ、やっぱりそうだったのか」
 たたいてきたので、考えるところ と父の不平等な扱いにあらため

て気がつきました。私はお人好し
 だったのです。もっと傷ついても
 よかったのかもしれない。

でも、そんな私がなぜクリスチ
 ャンになったのでしょうか。

私とキリスト教との出会いは、
 高校二年の夏、実家に帰省したと
 きのことでした。あの田舎の小さ
 な町に一人の外国人の女性を見か
 けたのです。

母に聞くとカナダから来た宣教
 師だと言います。数日後、その宣
 教師にばったり会うと、彼女は私
 に言いました。

「ぜひ、教会にいらつしやい」

それでもひとりりでゆくには、や
 はり教会の敷居は高い。一週間ほ
 ど迷ったあと、意を決して出かけ
 ました。教会は思ったよりすぐ近
 くにありました。玄関の戸をあけ
 ると、出て来たのは、あのときの
 婦人宣教師です。彼女は喜んで私
 を迎え入れ、こう言いました。

「私はあの日から、あなたのため
 に毎日祈っていたのです。あれか
 ら一週間がたつので、もう来ない
 かと思っていたら、ほんとうによ
 く来てくれましたね」

一週間も自分のために祈って
 れていたのかと思うと、なんだか
 うれしくなりました。それなら迷
 わないで、もっと早く来ればよか
 ったとも思いました。

そのとき何を話したのかよく覚
 えていませんが、彼女との出会い
 で私をもっとも驚いたのは、彼女
 の心の広さです。学歴や地位、能
 力といった物差しで人を測るので
 はなく、そんなものに少しもとら
 われないで、どんな人もひとりの
 人間として尊重する。それが私の
 心にひしひしと伝わってきたので
 す。

自分の卑屈な心に比べて、なん
 と広やかで、自由で、のびのびと
 した精神だろう。私は新鮮な感動
 を覚えしました。そして、そんな彼
 女にあこがれました。ああ、この
 人のようになれたらと。

まさにそれは私にとって新世界
 でした。そして、この出会いが、
 その後の私の人生を大きく変える
 ことになるのです。

あの宣教師を通して教会に足を
 踏み入れた者は多くいたでしょう。
 しかしクリスチャンになった人は

きわめて少数でした。

それなのに、たまたま夏休みを
実家で過ごしていた私がクリスチ
ヤンになったのです。

それは自分に何かよいものがあ
ったからでしょうか。自分が神を
求めたからでしょうか。そうでは
ありません。神がなさった恵みの
わざとしか言いようがないのです。
これらのことはみな、あの夏の
日、教会の扉を私が開いたときに
始まりました。

考えてみると、それは、その後、
想像もしていなかったような広い
世界に私を導き入れる扉だったの
です。その後の私の人生の全部が、
その扉の中にあつたのですから。

やがて出会うことになる多くの
人びと、読むことになる多くの書
物とその著者たち、彼らはみなそ
の扉の中にいたのです。
これらすべてのことを思い起こ

その扉を開かなければ、私を指
導してくれた宣教師たちや、私の
内面を養ってくれた内村鑑三やヒ
ルテイ、アウグスチヌス、フラン

チェスコといった著者たち、そして
ジョン・ニュートンやアイザ
ック・ウォッツなどの讚美歌作者

たち、ワーズワースやロングフエ

ローなどの詩人たちと出会うこと
もなかったでしょう。

さらに、考えてみると、生涯を
の扉の中にいたのです。
もし、あの日、あの時、あの扉

を開かなかつたら、私は、おそら
くそれは違う別の扉を開いたこ
とでしよう。そうすれば、その後
の私の六〇年は、まったく別のも
のとなっていたのです。

どの扉を開くか、それは何と重
大な行為でしょう。それはまさに
人生の分岐点です。

ですから今、私は感謝するので
す。あの夏の日、教会へ行つてみ
ようという思いが一週間持続した
ことに。そして思い切つて教会の
扉を開くことができたことに。

「まことに『あなたはエル・ロイ』
(ご覧になる神)です。あなたは

私のことを確かに心に留めてくだ
さっていました」と。(終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、

第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。